



(第 167 回友の会) 神峯山寺 自然観察会



～山川草木 神の山の自然を探る～

日 時 2019 年 4 月 14 日 (日)
 場 所 大阪府高槻市 神峯山
 天 候 曇り後雨
 参加者 一般 21 名 (内子ども 1 名)、スタッフ 20 名 合計 41 名

午前中から雨の天気予報、朝からどんよりと曇った日になりました。9 時過ぎに JR 高槻駅北口で受付、前もって予約していた臨時バスで神峯山口まで移動しました。神峯山口バス停では雨も降っておらず、挨拶、人数確認をして観察会をスタートしました。



神峯山口バス停で朝の点呼

神峯山口から山の入り口までは、ナズナ、ハコベ、カンサイタンポポと春の定番の花が咲いており、田んぼにはたくさんのスズメノテッポウがありました。スズメノテッポウの稈(かん：空洞の茎)を抜いて葉身を折り曲げて草笛を作り、笛を吹きながら数百メートル進み、山道に入りました。



神峯山自然園

山道に入ると、アケビ、タチツボスミレ、ナガバナタチツボスミレ、クサイチゴ、ヤマアイの花やアリドオシの実がありました。少し山道を登ると、車道になり近くには新名神高速道路がありました。コバノミツバツツジやモチツツジの花があり、モチツツジは一つの花芽からピンクの花を数輪つけます。花の付け根を触るとネバネバしており、虫の攻撃から身を守っています。ニワトコ、オニタビラコ、シャガ、シロヤブケマンなどが見られましたが、特定外来生物のナルトサワギクの群生が目につきました。



満開のアケビの花
(雄花と雌花の違いがよくわかる)

このころから、天気予報どおり雨が降り始め、傘をさしながらの観察会になりました。神峯山寺を通り、「神峯山の森自然園」に行きました。雨の時は閉園になると聞いていましたが、自然園の担当者の方が園を開けて待っていてくださいました。自然園では、ユキモチソウ、トキワイカリソウ、数種のカンアオイ、ミスミソウ、カタクリ、ヤブレガサ、ヒトリシズカ、ウラシマソウなどの植物を見ることができました。ユキモチソウ、ウラシマソウはテンナンショウ属でありユキモチソウは仏炎苞(ぶつえんほう)からのぞく花序の付属体の先端が、雪のように白くてやわらかく餅のようであることから名付けられています。ウラシマソウは長い付属体を浦島太郎の釣り糸から見立てたものです。両者ともに印象的な花でした。



ナルトサワギク

カタクリの淡い紅紫色の花も魅力的でした。種子から発芽した1年目の苗も見ることができました。エイザンスミレ、シロバナタチツボスミレ、ツクシスミレ、シハイスミレ、ノジスミレなどたくさんのおスミレ類がありました。

雨の中、自然園の近くの草地公園で昼食にしましたが、ここでもコブシやヤマモモの花が咲き、菌輪をつくるトガリアミガサタケや、出たばかりのギンリョウソウも見ることができました。

昼食後の店開きでは、

- ① ナルトサワギクは、徳島県鳴門市の埋め立て地で見つかり特定外来生物に指定されており、毒性も強く、繁殖力も極めて強い上、アレロパシー作用も持つため、在来植物を駆逐する危険性が大きいと言われている植物であること。
- ② スミレ属は、大きく分けて2つのグループがあり、地上茎が伸びるグループと地上茎が発達せず葉や花柄が根元から出るグループに分かれていること。
- ③ ギンリョウソウは腐生植物で全体が白色で葉緑体を持たない植物であること。
- ④ アラカシの虫こぶについて。
- ⑤ トガリアミガサタケはフランスなどで高級食材として食べられているキノコの仲間であり、下見の時スタッフがトガリアミガサタケを持ち帰り、調理し食べた感想について話していただきました。

雨の中での観察会ではありましたが、貴重な植物が多く見られた神峯山での観察会は無事終了しました。（梅田）



エイザンスミレ



カタクリ



トキワイカリソウ



ヒゲナガガ sp.



ホソバタブには粘があり線香の材料（粘結材）に使われる

葉柄からでる粘りが糸を引く様子を見ました



シロヤブケマン



ユキモチソウ